

機関番号：22302

研究種目：若手研究(スタートアップ)

研究期間：2008～2010

課題番号：20820028

研究課題名(和文) インドネシアにおける現代ダンスの史的考察

——サルドノ・W・クスモを中心に

研究課題名(英文) Historical Survey on Contemporary Indonesian Dance  
and Sardono W. Kusumo

研究代表者

武藤 大祐 (MUTO DAISUKE)

群馬県立女子大学・文学部・講師

研究者番号：30513006

研究成果の概要(和文)：サルドノ・W・クスモの活動をめぐって、インドネシアでの現地調査および国内での文献調査を行った。結果として比較的豊富な映像資料、詳細に記された活動履歴、文献を入手した他、多くの貴重な証言を得た。とりわけサルドノ本人の証言は、広く流布するサル・ムルギヤントの言説と食い違う部分が多く、アメリカのモダンダンスの影響よりもむしろインドネシアの政治・社会状況との深い連関をふまえた、より内在的な歴史記述の可能性が見えてきた。

研究成果の概要(英文)：Focusing on the role that Sardono played in history of modern Indonesian dance, I conducted fieldwork in Indonesia and researches in Japan to collect materials and interview with Sardono and related people. I obtained video recordings of performances which were relatively well-kept, along with detailed chronology and rare books by/on Sardono. The interviews revealed many facts which are inconsistent with Sal Murgiyanto's account widely shared and regarded authoritative. As result I would say Sardono and contemporary Indonesian dance should be historicized in relation to political situation and social change in Indonesia, rather than with too much emphasis on purely artistic influence of American modern dance.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	740,000	222,000	962,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総計	1,940,000	582,000	2,522,000

研究分野：舞踊学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：ダンス、舞踊、サルドノ・W・クスモ、インドネシア

## 1. 研究開始当初の背景

90年代以降、現代ダンスは世界各地で多様な展開を見せており、作家たちは地域や民族ごとに異なる歴史背景や、社会状況への応答を見せている。中でも東南アジアでは伝統文化と現代の創作活動が密接に関係しており、

グローバル時代の現代ダンスの典型的状況といえるが、研究はあまり活発ではない。

## 2. 研究の目的

独立後のインドネシアにおいて、現代ダンスは、多文化主義や地域主義などといった今

目的な課題と絶えず関わって独特の展開を遂げてきた。しかしその大部分は国外ではあまり知られておらず、学術的な研究も乏しい。世界各地で現代ダンスが取り組んでいる、文化をめぐる諸問題が凝縮されたインドネシアの事例の考察には大きな意義がある。本研究ではモダンダンスの先駆者として最も影響の大きかったサルドノ・W・クスモを中心にインドネシアの現代ダンスの歴史的展開を精査する。

### 3. 研究の方法

サルドノ個人の活動に軸をおきながら、現代ダンスの発展の中に位置づけていく。資料調査・収集と、聞き取り調査をいくつかの段階に分けながら進め、年表作成、映像資料の整理、および歴史記述を最終的な目標とする。

### 4. 研究成果

国内での文献調査などのほか、インドネシアでの現地調査5回（うち2回に科研費を充当）、ニューヨークでの調査1回（科研費は充当せず）を行い、下記の成果を得た。

#### (1)資料の所在調査について

##### ①記録映像

1979年の作品 *Meta-Ekologi* 以降、かなりの数の上演が撮影されていることがわかった。フィルムによるものも多くはビデオに変換されており、閲覧は比較的容易である。ただし保存状態に問題のあるものも少なくないため、全ての内容を確認することはできていない。またサルドノは同一タイトルの作品を文脈や環境に応じて変更しながら繰り返し上演しており、その都度の記録映像が異なった内容をもっている。そのため一つの作品を単一の映像資料に基づいて語ることは適切でなく、むしろ作品よりも個々の上演を単位としてサルドノの活動を把握する必要がある。そこに政治や社会の状況にตอบสนองしながら活動するサルドノの芸術の本質があり、このことは今回の調査により明白になった事実といえる。

##### ②上演などの記録

サルドノのマネージャーによって常に最新の状態に保たれた詳細な活動履歴（年表）を入手できた。

##### ③その他の資料

サルドノの著作 *Hanuma, Tazan, Homo Erectus* およびその英語訳、かつてサルドノのもとでダンサーとして活動していたサル・ムルギヤントの先駆的な研究論文（NY大学に提出された博士論文、未公刊）を入手した。また近年サルドノが指導している学生

の作品のいくつかを、主に記録映像によって調査することができた。

#### (2)聞き取り調査について

サルドノのほか、多くの関係者に対する聞き取り調査を行った。

サルドノからは一般に流布している言説（主にサル・ムルギヤントの証言と研究に基づくもの）とは相当に食い違う証言が多く得られ、これによって従来の歴史認識は大幅に改められる必要のあることがわかった。とりわけ1960年代のインドネシアの「古典舞踊家」とスカルノの政策との関係、そして西洋近代的な芸術の概念に接しながらも、グローバル化する芸術市場に対しては批判的に応じ、むしろ国内での多角的な文化状況へと向き合っていくサルドノの個人史は興味深い細部に富み、芸術と政治を一体として捉えた歴史記述への展望が開けた。

一方、特に若い世代の間では、アメリカのモダンダンスからの影響を強調するサル・ムルギヤントの言説がよく浸透しているという印象をもった。

最終年度には、サルドノより早く渡米したステイ・アルティ・カイローラへの聞き取り調査も実現し、古典舞踊から現代ダンスに進んだサルドノとは異なる文脈を知ることができた。

#### (3)その他

2009年10月、「山形国際ドキュメンタリー映画祭」におけるサルドノの映画作品の紹介に協力し、上映に加えてサルドノ本人の招聘を実現した。

サルドノをはじめとするインドネシアの現代ダンスについては国内外を問わず研究が進んでいないため、上記の成果をもとにした研究（とりわけサル・ムルギヤントの見解を覆すそれ）のインパクトは決して小さくないものと考えられる。

伝統舞踊の近代化という現象ではなく、同時代の芸術家たちによる創造的活動がいかなる状況の中で展開してきたかを、まずサルドノについてまとめ、それを軸としてインドネシアの多様な側面へと研究の視野を広げていきたい。

### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

① 武藤大祐、NYはムスリムの声を聴くことができるか——市場原理主義・芸術・他者（韓国語訳）、MOMM、査読無、Vol. 182、2010、pp. 68-69

〔学会発表〕（計0件）

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

武藤 大祐 (MUTO DAISUKE)

群馬県立女子大学・文学部・講師

研究者番号：30513006

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：